

竹田市経済活性化促進協議会

人材育成セミナー報告書

1. セミナー : 第1回 暮らしのサポータースキルアップセミナー
2. テーマ : 『高齢者・障がい者が地域で暮らすためのしくみや支援』
3. 日時 : 平成23年10月16日(日) 10:00~12:00
4. 場所 : 竹田市総合社会福祉センター 会議室
5. 講師 : 竹田市地域包括支援センター 社会福祉士 本田直美氏
6. 内容 :

講義内容

1. 生活課題と福祉課題

- ・今日は参加者と一緒に福祉の課題について考えていけたらと思って、資料は用意していないので、グループワーク方式にすることを講師より説明がある。
- ・福祉の流れは、平成12年の介護保険スタートの時からサービスの利用方法が変わった。

利用者が自らの意志に基づいてサービスを選択できるようになった。

- ・可能な限り、住み慣れた地域で共に誰もが生活していけるのが普通だというノーマライゼーションの考えに基づいている。
- ・自立支援は国が取った政策としては、「誰でも安心して地域で暮らせる基盤を整えよう」という形を作っている。
- ・“動けない人は施設に入れればいい”という考えから、自宅で看ようという考えに変わってきている。

病院や施設に入っている人を家に帰そうという動きがある。

しかし、家族だけでは補えないので、地域ぐるみでの見守りが必要となる。

- ・「高齢者」や「障がい者」だけではなく、「人」が地域で暮らすために。人は、元気の良い時は生活の中での困り事や不安はあまりないかもしれない。
- ・高齢になり、家族が自宅でお風呂に入れるのが困難になった。そんな時は、デイサービスがあるとおしえてあげればいい。デイサービスに通って、専門の介護スタッフに入れてもらうか、ヘルパーに来てもらってお風呂に入れてもらうこともできる。

事例

- 一人暮らしの高齢者だが、自力で生活はできている。が、ゴミだしと電球換えだけに困っている。
しかし、それだけの為にヘルパーを雇うことはできない。
ゴミ出しだけの支援だとヘルパーは困惑する。
介護保険の関係もあり、食事やそうじを組み込めないかと思うが、本人はゴミだしと電球替えだけを必要としている。
- 映画館で映画を観たいと思った時、ヘルパーが付き添って一緒に観ていいのかよくわからない。
墓参りに行きたいが、墓は足場が悪いところにあるので誰かについてきてもらえば行ける。
映画に付き合ってもらうのはためらわれるが、墓参りならヘルパーに付き添ってもらえるかもしれないと思う。利用できそうな気がする。
- 捻挫した間の少しの間だけ不便なので、ヘルパーが来て欲しいと思うが、介護認定を申請して認定が下るまでに1ヶ月かかるので、その間には治ってしまう。
ほんの少しの間に利用できる制度がほしい。
- 知的障がいのある人が、55歳くらいになってちょっと人の手がほしい状況になったが、知的障害の認定をまだもらっていなかったため、障がい者の制度にも、高齢者の制度にも引っかけられない。
このように、どちらの制度も受けることができない人もいる。
このような現状を今後はどうしたらいいのだろうか？
- 妻を亡くし、家に閉じこもりがちになった。
ある日、突然心臓発作を起こし死亡してしまうが、誰にも気づかれることなく、2~3週間後に発見されたケースもある。
このような場合は、地域との関わりがあれば孤独死は防げたかもしれない。
制度と制度の歪みにいる人たちが多くいることも現状。
- 地域の人が「これは見守りにつながっているんだ」という心があるといい。
この活性化の取り組みは大変いいと思う。

2. 介護支援員の役割

- ・介護認定の申請をする→調査員がくる→調査する→審査→認定される。
要介護1~5、要支援1~2の7段階の評価が下る。
ここからが支援員の仕事。
要介護の人は資料の14頁が仕事内容となる。
要支援は資料の20頁（別途資料「みんな笑顔で介護保険」14、20頁参照）。
1人につき、1人のケアマネージャーが担当者として付き、利用者の希望に沿

ってそれぞれのケアプランを立てていく。

掃除や食事のことなども相談しつつ、どこまでのサービスを利用するかを決める。

何をどこまで利用するかはケアマネージャーが決めるのではなく、利用者本人が決める。

国の制度に乗った分でプランを立てることになるが、電球だけを替えるためだけにヘルパーを1時間入れるのは難しい。

自分が替えてしまうケアマネもいるが、本来はそれが仕事ではないし、ヘルパーの仕事でもない。

○火の始末が出来ない人がいた。

近所の人気がにして、みんなでちょくちょく顔を出したりして毎日ご飯やおかずを持って行ったり、煙が出てないかを見守りをしていた。

ある日、福祉関係の人につながりが出来、そこからデイサービスに通うようになった途端、周囲は安心してその人への関心が薄れ、見守りがなくなってしまう。

福祉や行政などが入ると、周囲は福祉が看ってくれるから、と安心して関心が薄れてしまうことがよくある。

福祉サービスも利用しつつ、周囲の見守りも続いていくような地域にしなければならない。

3. グループワーク

言われたらわかるけど、これも見守りになるのかな？ということと一緒に考えたい。

- ・住民履歴（別紙資料のとおり）にあらかじめ書かれてある、竹田太郎さんの例を参考に、太郎さんがどんな風にしたら楽しく生きられるだろうか？を考える。

例：太郎さんは自家製味噌づくりが趣味。

⇒これを道の駅で売ったらどうか？と助言してあげる人が居たら、太郎さんは小銭が稼げるようになる⇒小銭が稼げたら、酒の肴を買うことが出来る。

結果、趣味の味噌を作り、それが売れることによって収入が入り、一番楽しみにしている晩酌の肴を買うことが出来、生き甲斐になる。

例をもとに、ほかにも理想でいいので考えてほしい。

味噌を売ることに對する保健所手続きの関係や制度など、難しいことは考えなくていいので、理想を考えてほしいと講師より説明がある。

●グループワーク 1

介護サービスの制度に乗せて考えてもいい。

- デイサービスで囲碁をしたいがデイで囲碁の相手が居ない、職員も若いので囲碁ができないのが現状。
- 昔得意だったわらじ作りや、ひょうたん作り、味噌作りなどの趣味を生かして、近所の人や子供などに教えてはどうだろうか？
- 交通安全の時に配る物に太郎さんが作ったひょうたんを加工して配ったら、地域の人ともつながれるのではないだろうか？
- 子供のころに遊んでいた竹馬や竹トンボを子供たちに教える機会を作る。
- 結婚式をあげたいという夢があるので、それを実現できるように応援できたらいいのではないだろうか？
- 資料の太郎さんを見る限り、まだグランドゴルフを楽しむことも出来ているし、このままで十分幸せなのではないだろうか？と思う。
- 味噌を売る⇒売れるだろうか？
竹トンボを売る⇒売れるだろうか？
現実ではいろいろな課題がでてくる。
- 結婚式をあげたいという夢を叶える為に、地域で開催されているイベントにのっけて地域の人が祝うようなものにしてはどうか？
もちろん、本人には内緒にしておく。近所の人企画。
田舎なので、たんぼでの結婚式でもいいかもしれない。
これは、実際に行っている地区もある。
- 活性化の事業で、今のような意見が実現できるような仕組みを作っていくてもらいたいと思う。



太郎さんのプランを話し合う様子

●グループワーク 2

- ①先ほどの太郎さんを例にして、自分が84歳くらいになったことを想定して考えてほしい。それを裏面に記入する。
- ②グループの中から、1人を代表者を選び、代表者の住民履歴を違うグループの人に渡し、プランを考えてもらう。
1班からは鹿島久秋氏、2班は湯地恵子氏、3班は鹿島紀美子氏の住民履歴が違う班に渡される。
- ③各班に模造紙とマジックを配る。
まず、模造紙の真ん中に人物の絵を書く。
住民履歴書をよく読み、どんなことをしたらその人が輝いて生きられるか、制度などに縛られず、考えられる支援を人物像の周囲に書いていく。
(写真①②)



写真①



写真②

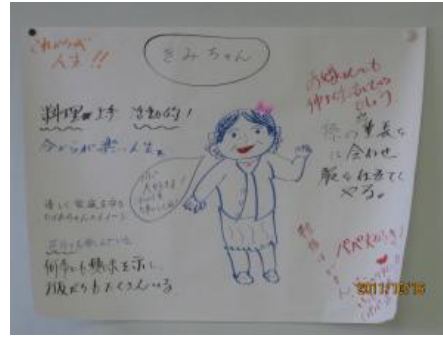
趣味や、楽しみにしていることなどをそれぞれ書き込んでいく。



講師より助言を受け、真剣にプランを考える様子



- ④正面のホワイトボードに貼り、書いたグループ全員が前に出る。
対象にした本人の前で発表する。
・1班の発表の様子（対象者：鹿島紀美子氏）



・ 2 班の発表の様子（対象者：鹿島久秋氏）



・ 3 班の発表の様子（対象者：湯地恵子氏）



現在の本人の趣味や活動などを反映した「生き活きプラン」が出来上がる。

- ・ 野菜作りをしている。
- ・ 予防運動をしている。
- ・ 子供や孫に囲まれている。
- ・ グランドゴルフをやっている。
- ・ ガーデニングを楽しみ、家庭菜園を作っている。
- ・ 布ぞうりを作っている→布ぞうりの作り方を教えたらいいと思う。
- ・ 嫁との仲も円満であろうと想像される。

どの班のプランも、80歳を過ぎても多忙に生活していることが想像できるプランだった

○発表の対象となった参加者も、自分が現在していること以上に評価されて驚

いたし、80歳を過ぎた頃もそうであるように生きたいと答える。

4. まとめ

- ・グループワークによって考えた生き活きプランの中には、介護保険のサービスを利用している話は全然出てこなかった。
- ・このことから、今後は介護保険に入らないサービスが必要なのではないかと思われる。
- ・セミナーを活用し、制度にないサービスを市に向けて発信するようなことにも繋がるといいと思う。
- ・毎年1回、地区の大運動会のイベントの時に、結婚式をあげてないカップルに結婚式を上げさせたりしてもいいんじゃないだろうか。
- ・竹田市独自のパッケージが必要。
何かひとつでもセミナーを通じて竹田市に発信してほしいと思う、と講師よりまとめがあり講義を終了する。

5. 閉会

暮らしのサポーター養成セミナーに参加した当初は、いろいろと訳が分からないことも多かったと思うが、回数を重ねていく上で参加者の皆さんにも福祉の現状や、竹田市に何が必要なのかがだんだんと判ってきたのではないだろうか。

今後は、暮らしのサポータースキルアップ、有償ボランティアというセミナーも入ってくるので、無理のない程度に頑張してほしいです、と推進員の古澤より案内があり午前の講義を閉会する。